

センターNEWS

き★ら★り

からだの権利って？

「わたしのからだはわたしのもの」自分のからだのことは自分が決めていいのです。誰もが、自分のからだに、誰が、どこに、どのように触れることができるのかを決める権利を持っています。これをからだの自己決定権と言います。ただ自分が自分のからだのことは自分で決めるには幼少期から「わたしのからだを大切にすること」が身につけていなければなりません。からだはどこをとっても大切ですが、その中でも命にかかわる「くち・むね・おしり・せいき」はプライベートゾーンと呼ばれ、必要な場合をのぞいて誰かが自分の同意なく、見たり触ったりしてはいけないところです。そして自分が不快だと感じる触られ方をした場合には、イヤと言う、逃げる、相談する、などはっきりと態度で示すことが大切です。

そして自分の性的なこと、いつ誰とどこでどのように性的なかかわりを持つかは、自分が決めていいのです。性的なかかわりを持つにはお互いの同意が必要です。同意について考えることは、自分と他人の関係性を見つめ直すきっかけにもなります。

自分のからだを大切にすることが、相手を大切にすることにもつながるのです。

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」という言葉を知っていますか？

1994年、エジプト・カイロで開催された国際人口開発会議の「行動計画」、及び1995年第4回世界女性会議「北京宣言及び行動要領」で「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」という概念が提起されました。

「リプロダクティブ・ヘルス」は性と子どもを産むことに関わるすべてにおいて、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態（＝ウェルビーイング）であることを指します。

「リプロダクティブ・ライツ」は自分の身体に関することを自分自身で決められる権利のことです。

この関わり合う二つの概念を合わせて英語ではReproductive Health and Rights (RHR) と表記し、「性と生殖に関する健康と権利」と訳されます。

国際社会において、ジェンダー平等の実現という課題とも結びつきながら発展し、SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」や目標5「ジェンダー平等を達成しよう」においてもリプロダクティブ・ヘルス/ライツを保障することが記されています。



SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連サミットで採択された持続可能な世界を実現するための17の目標から成る国際目標であり、誰一人取り残さないことを誓っています。



3月8日は「国際女性デー」

国連が1975年に女性の権利を守りジェンダー平等の実現を目指すために制定しました。世界各地で女性の人権問題に関する取組が行われています。

2023年3月8日の国際女性デーのテーマは、「DigitALL: Innovation and technology for gender equality（ジェンダー平等のためのイノベーションとテクノロジー）」です。また、イタリアでは、「国際女性デー」に男性から女性に感謝の気持ちを込めてミモザを贈ったことから、「ミモザの日」とも呼ばれるようになりました。

感染者が増えている「梅毒」 ← 性感染症の1つ

新型コロナウイルスの流行でマスク着用、手洗い・うがいの励行などの感染対策が強化され、インフルエンザなどの他の感染症が減少傾向にある中、梅毒感染症は増加傾向にあります。国立感染症研究所は2022年10月に今年報告された梅毒の感染者数が累計で1万141人と速報値を発表しました。(図1)

1948年以降、小流行を認めながらも減少傾向でしたが2010年以降増加に転じ、年間で1万人を超えたのは初めてです。この傾向は全国的にみられ、特に東京や大阪、その周辺地域からの報告が多くなっています。

感染者は特に20～50代の男性と20～30代女性が中心(図2は東京都)となっており、男女ともに異性交渉が主な感染経路となっています。交流サイト(SNS)やマッチングアプリ、性風俗などで不特定多数の人と出会って性行為をすることが感染拡大の1つの要因になっている可能性があるとの見方があります。海外からの流入の影響を心配する声もありましたが、新型コロナウイルスの流行で水際対策が強化されても増加したことから国内で性行為を通じて感染が広がっている可能性が高いと見られています。

梅毒の増加の背景には性感染症に対する知識や予防意識の欠如があり、適切な感染予防と早期治療が必要です。

保健所では、無料・匿名のエイズ相談・HIV、性器クラミジア感染症、B型肝炎、C型肝炎、梅毒検査を実施しています。

※乙訓保健所では第1・3火曜日13時～15時に実施していますが、念のためお問い合わせください。

梅毒患者数の推移



図1 読売新聞オンラインより



図2 東京都福祉保健局 東京都性感染症ナビより

梅毒：「梅毒トレポネーマ」という細菌を原因とし主に性的接触により感染する性感染症の1つです。症状は感染から3～6週間ののち性器、口唇部などにしこりができ、放置すると徐々に全身に炎症が広がっていきます。治療には抗菌薬が用いられます。

日本における避妊の現状

厚生労働省によると日本の人工妊娠中絶件数は減少傾向にありますが、2020年では145,340件となっています。日本では女性が主体的に選べる避妊手段が限られている現状があります。

国連の調査によると、日本の避妊法は男性用コンドームが多く使われていて、欧米で広く使われている女性主体で使用できる経口避妊薬(低用量ピル)や子宮内避妊具(IUD)といった避妊法の使用率は低い状況にあります。性的な行動について自分で決められること、子どもを持つかどうか、持つとしたらいつ、どのように、何人の子どもの持つかを選べるのが尊重されるべきです。そのためには安全で有効な避妊の選択肢が増えて、必要な情報、サービスを得られることが重要になってきます。

男女共同参画センター
“いこ～る” プラスの相談

女性の相談室 予約・問合せ番号
075-963-5502
(月～土午前9時～午後5時)

DV相談専用番号
075
874-7867
(月～金午前9時～午後5時)

電話相談専用番号
075
963-5522
(月～金午前9時～午後5時)

男性電話相談
075
963-5522
(毎月第4金午後7時～午後9時)

出前授業

「性の多様性について知ろう」

9/20 (火) 長岡第四中学校 11/28 (月) 長岡第二中学校

性は多様であり、一人ひとりがその多様な性を持つ一人であること、そして、誰もが安心して暮らせる社会をつくるためにできることは何かを考える授業を行いました。



第二中学校



第四中学校

10/19 (水) 乙訓高等学校

多様性とは何か、パラリンピックから体の多様性について考え、目に見えるものと見えないものがあることに気づき、オリンピックでの性の多様性に関連づけて「多様性と調和」についてお話ししました。

乙訓高等学校



デートDV防止啓発授業

6/29 (水) 乙訓高等学校 12/7 (水) 西乙訓高等学校

DV予防教育として「デートDV」とは何か、暴力のない人間関係や対等な関係の築き方、お互いを尊重し成長する関係の必要性とともに、自撮り画像流出の危険性・JKビジネス等の予防と対処方法について啓発授業を行いました。



乙訓高等学校



西乙訓高等学校

出前講座

6/11 (土) 三つ和母子会出前講座 「家庭で話そう思春期の性」

家庭で性教育はどうすればいいの？若者の現状と子どもたちが知りたいこと、どう教えていけばいいの？、性の健康を守るために大切なことを伝えました。



男女共同参画講座

10/7 (金) マインドフルネスを体験しよう♡

講師 つながるラボ代表 公認心理師 緒方幹代さん
頑張っているあなたへごほうびの時間～頭を緊張から解放し、自分のカラダと呼吸に意識を向けてゆったりとした自分時間を味わいました。



12/12 (月) 自分らしく幸せに生きるために

講師 ホリスティック教育実践研究所 所長 金香百合さん
「人とのつながり」「バランス」「関係性」を軸とした「こころとからだの栄養」や自分らしさ、人と健全に関わるにはどうすればいいかを考えました。



男性支援画座

1/28 (土) ～仕事・家庭で活かせるコミュニケーション～ 語る力と聴く力

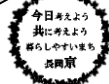
講師 濱田智崇さん 京都橘大学健康科学部心理学科准教授/公認心理師/
臨床心理士/カウンセリングオフィス天満橋代表
前半は男性のコミュニケーションがなぜ困難なのか、についての講義を聞き、後半はより良いコミュニケーションを実践するワークで盛り上がりました。



2/4 (土) 大切なものを守り引き継ぐために～熟年世代からの財産管理と承継を考える～

講師 山副耕一さん 京都府金融広報委員会金融広報アドバイザー
安心してセカンドライフを過ごすため、人生設計や次世代への引き継ぎを考えて、資産管理・相続・遺言・成年後見などについて学びました。

「長岡京市市制50周年記念」
 人権・男女共同参画
 フォーラム
 2022
 12/3 (土)



いまの自分で輝こう！ 増田太郎さん講演会

5歳よりヴァイオリンを始め20歳で視力を失うも、その生命力あふれる演奏で多方面で活躍し、クラシックとはひと味違う参加型ステージで世代をこえて人気が高い奏者。長岡京市以外の参加者も多く、そのステージは熱気にあふれ盛り上がりました。

◆長岡京市市制50周年記念「自分らしく生きられる未来へ」◆



男女共同参画メッセージを募集しました！
 テーマ①男性なら「〇〇すべき」女性なら「□□して当然」という思い込みによって違和感や不平等を感じることをテーマ②「こうなったらいいな」と望む 男女が共同で参画できる、自分らしく生きられる未来の姿



- この2つのテーマに60人、総数77作品が集まりました。
- 「男女共同参画年表」とともに12月3日フォーラムで展示をしました。ご協力ありがとうございました。
- ※男女共同参画センターの壁面に3月末まで展示しています。
- 防災訓練(10月30日実施)に「防災と男女共同参画」リーフレットを1000部配布しました。



◆男女共同参画啓発作品◆

男女共同参画啓発作品「川柳」には146の応募がありました。フォーラムで展示するとともに、ポケットティッシュに作品を入れて各啓発事業時に配布しています。ぜひ手に取ってご覧ください。※男女共同参画センターの壁面に4月から展示します。



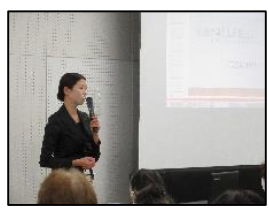
パープル&オレンジリボンプロジェクト2022

身近なところでDVが起こったら・・・

◆【講演会】11/11(金) 私たちにできることは？
 DV被害者支援に携わる京都府家庭支援総合センターの職員より、DVの正しい知識、身近なところでDVが起こった時の対応や支援のあり方について学びました。



◆【講座】11/21(月) **虐待の淵を生き抜いて**



～人にもモノにも自分にもあたらない社会をめざして～
 島田妙子さん(一般財団法人 児童虐待防止機構オレンジCAPO 理事長)に幼少期に虐待を受けた実体験に基づくお話や、アンガーマネジメントを学び、私たちにできることについて考えました。



59人書籍の貸し出しがありました。

◆DV関連図書展示◆
 長岡京市立図書館 11/1～12/21



◆西山短期大学◆
 「アダルトビデオ出演被害について」「パープル&オレンジリボン」のチラシを配布しました。

◇編集・発行◇

長岡京市男女共同参画センター
 “いこ～る”プラス
 〒617-0833
 京都府長岡京市神足2丁目3番1号
 長岡京市立総合交流センター6階
 TEL 075-963-5501
 FAX 075-963-5521
 E-mail: danjo-c@city.nagaokakyo.lg.jp

◇利用のご案内◇

☆開館時間
 月曜日から土曜日
 午前9時から午後5時
 ☆休館日
 日・祝日及び年末年始
 ☆アクセス
 JR京都線長岡京駅西口から徒歩1分

